

年末年始の本船荷役実績の傾向等について
(2021.12.31～2022.1.4)

1. 昨年との比較

		昨年	
◦年末年始荷役実施港	65港	(60港)	
◦荷役隻数 (外航・内航の合計)	880隻	(726隻)	154隻増
内訳			
コンテナ船	235隻	(198隻)	37隻増
RORO船	38	(42)	4隻減
自動車専用船	10	(4)	6隻増
在来船	341	(278)	63隻増
その他船	256	(204)	52隻増

2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前年と比べ5港増加している。
- ・隻数については、全国では154隻の増、6大港では51隻の増となっている。
- ・船型については、RORO船のみが減少し、それ以外の船型は増加している。
全体の4分の1ほどを占めるコンテナ船の隻数は、コロナ禍等で落ち込んだ前年の反動増に加え、期間中の平日が2日から3日へ増えたこともあり、ほぼ2年前の水準に回復したと考えられる。
- ・地方港の「在来船」「その他船」については、原材料等の需要が堅調であるためと考えられる。

3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数、取扱個数共に前年より増加した。
- ・コンテナ船235隻中、外航コンテナ船は231隻であり、隻数は前年を37隻上回り、取扱個数も約12万6700TEUと前年を約2万3500TEU上回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は173隻（前年比27隻増）であり、川崎、名古屋以外の5港が前年を上回った。取扱個数では横浜、川崎以外の5港が前年を上回った。また、1隻当たりの取扱個数も前年を上回った。国際海上コンテナ輸送のスケジュールが混乱している中、旺盛な需要が続いているものと考えられる。

年末年始の本船荷役実績
 (2021.12.31 ~ 2022.1.4)

(隻)

区分		コンテナ船	その他 〔RORO、自動車〕 〔在来船、その他〕	合計
主要港	東京	36 (28)	4 (4)	40 (32)
	横浜	36 (36)	9 (3)	45 (39)
	川崎	2 (2)	19 (11)	21 (13)
	名古屋	29 (31)	21 (12)	50 (43)
	大阪	28 (18)	40 (49)	68 (67)
	神戸	25 (18)	5 (2)	30 (20)
	関門	17 (14)	35 (27)	52 (41)
	6大港計	173 (147)	133 (108)	306 (255)
その他主要港	千葉	0 (3)	30 (25)	30 (28)
	清水	10 (6)	0 (3)	10 (9)
	四日市	6 (6)	8 (7)	14 (13)
	博多	12 (16)	2 (7)	14 (23)
	その他主要港計	28 (31)	40 (42)	68 (73)
11港計		201 (178)	173 (142)	374 (328)
その他の港湾 (54港)		34 (20)	472 (378)	506 (398)
合計 (65港)		235 (198)	645 (528)	880 (726)

注) 1. ()内の数値については昨年実績

2. 数値は、外航船、内航船の合計値